

# 久留米工業高等専門学校

1939年(昭14)に開校した旧制久留米高等工業学校が起源の久留米工業高等専門学校。「自立の精神」を理念に学生の自主性に重きを置いた教育方針を掲げる。そのポリシーはチャイムや校内放送を使わないといった日常にも表れ、学生を自主的、主体的な行動へと導いている。モノづくりの技術育



三川校長

【DATA】▷校長=三川譲二氏  
▷所在地=福岡県久留米市▷学科構成=**〈本科〉**機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料システム工学科、**〈専攻科〉**機械・電気システム工学専攻、物質工学専攻▷生徒数=本科1054人、専攻科63人▷主要設備=CNC旋盤、マシニングセンター、3Dプリンター、発光分光分析装置など▷主な進路=三菱重工業、SUBARU、富士通、森永乳業、ダイキン工業、九州電力、東京工業大学、筑波大学、九州大学、九州工業大学、熊本大学など

## 全学共用の実習設備充実

成では、2014年に完成した「ものづくり教育センター」が重要な拠点となっている。センターには従来の鑄造や鍛造、溶接、機械加工といった基礎的な実習に加え、ITを応用した実習環境が整備されている。またCADによるデジタル回路設計を学べるメカトロニクスデザイン室、電圧実験や送電実験などを実践的に行える電気機器・自然エネルギー実験室など、施設を共用とした理由を三川譲二校長は「学科横断による複合教育により基礎的な技術を習得できる環境を整えることが重要」と語る。学科改編など分野横断的な組織構成を進める高専もある中、同校はそれぞれの学科の枠を保ちながら各分野の専門性と総合力の育成に力を入れる。産学連携では、過去に校長を務めた和栗明氏が歯車関連の研究を工の基礎講座を同校で開くなど技術者育成の一端を担っている。(東京都港区)とのつながりも深い。同協会や医療分野が盛んな久留米の土地柄を生かしながら育んでいく。(西部・高田圭介)



ものづくり教育センターでは自由鍛造など専門的な技術の育成にも重点を置く

大学や業界団体との積極的な連携から共同研究などによる実践的な成果を残している。

今後に向け三川校長は「地域に根ざしつつグローバルに活躍する『地域グローバル技術者』を育てたい」と語る。言葉の裏には久留米に拠点を持つ企業が世界と密接につながっていることがある。地元と世界の双方を意識できる高度な人材育成に向け、自主性を尊重しながら育んでいく。

(西田・高田圭介) (金曜日掲載)

# 育成モノづくり人材

Vol. 73